

「第21回地域医療連携懇話会」アンケート集計結果

日時 令和8年2月19日(木)14:00~15:30
場所 奈良県立医科大学 厳櫃会館3F大ホール

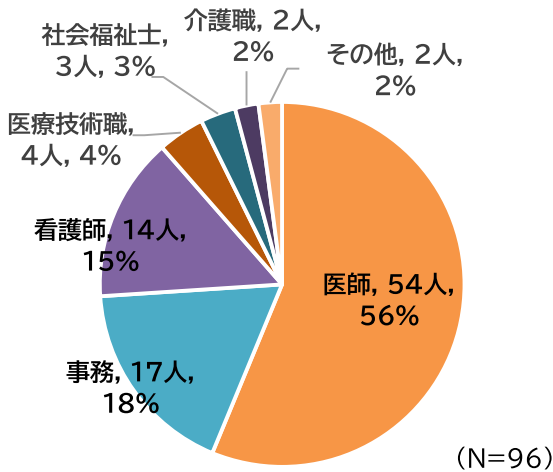
▶ 参加状況 (名)

会場参加者	12
オンライン参加者	84
総計	96

アンケート回収数	58件
回収率	60%

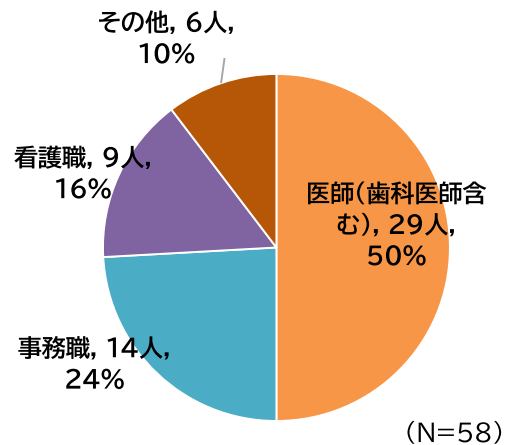
1. 職種内訳について

参加者



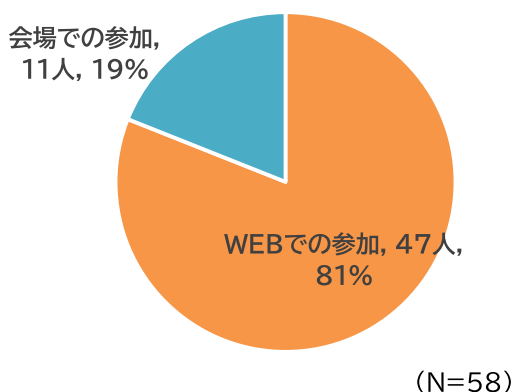
※「その他」内訳※
研究職 1人
公認心理士 1人

アンケート回答者

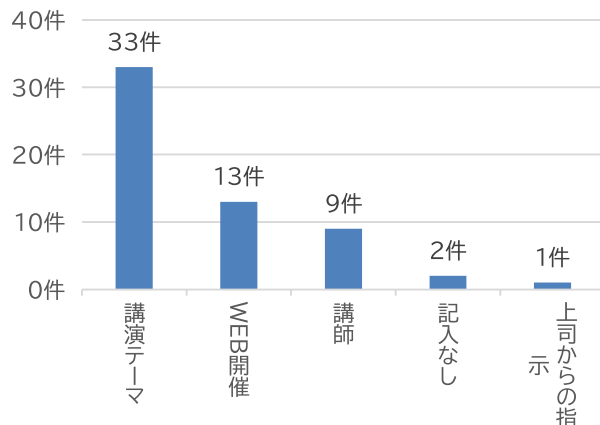


※「その他」内訳※
社会福祉士 3人
MR 1人
歯科衛生士 1人
ケアマネジャー 1人

2. 参加方法について

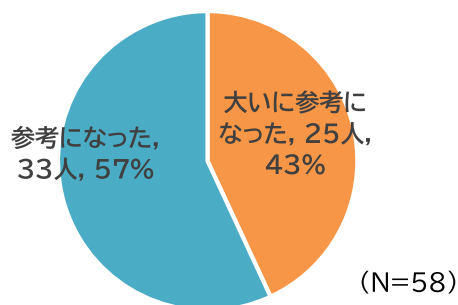


3. 参加動機について(複数回答可)



4-1. 講演 I 「睡眠医療に関する最近の動向と睡眠呼吸障害診療の最先端について」

内容について



感想

※いただいたメッセージは原文のまま掲載しています。

- CPAPの個別化医療について興味深かった。
 - 植込み型舌下神経刺激療法に興味あり。
 - 現行のCPAP療法が上手く行っていない患者さんについて相談させていただこうと思っています。
 - 新しい情報を知ることができた。
- 歯科では、医科でOSAの診断をしていただいたのち 口腔内装置を作製する方法がありますが、この方法の有効性はどのようなものでしょうか？
- A. 口腔内装置は、CPAP適応基準に達しない重症度のOSA患者や、CPAP不耐の患者に対する治療法として、エビデンスをもって推奨される治療法です。当院でも口腔外科に紹介して口腔内装置を作成していただいています。殆どの患者で自覚的に改善を認めています。
- 奈良にも先端の睡眠医療を提供していただけるのは大変ありがたい。
 - 睡眠の幅広い内容を学ぶことができました。
 - 興味深い講演で新しい知識が増えました。ありがとうございました。
 - 大学病院で臓器横断的な睡眠センターを立ち上げられたことに興味を持ちました。
- 歯科では 医科でOSAの診断をしていただいたあと 口腔内装置を装着することがありますが、その利用割合や効果はどれくらいでしょうか？
- A. 当院でも口腔外科に紹介して口腔内装置を作成していただいています。殆どの患者で自覚的に改善を認めています。睡眠医療・呼吸管理センターで半年毎の効果判定簡易睡眠検査を行い、安定してきますと、センターとしては1年に1回のfollow upとしています。もちろん状況に応じて入院のうえPSGを行うこともあります。利用状況(アドヒアランス)は、保険診療下で作成できるOAでは、客観データを取得できませんので、患者申告となりますが、当センターが抱えている患者においてはアドヒアランス良好です。

- 呼吸に関して、舌骨上下筋群の関与についての考察が皆無であったことには疑問を感じました。奈良医大の口腔外科がどれだけ睡眠に関して興味を持っているかはわかりませんが、本来はこの領域は歯科の関与が不可欠であると思われます。歯科の関与無しに睡眠や呼吸の臨床は考えられないはずなのですが、非常に残念な思いでした。

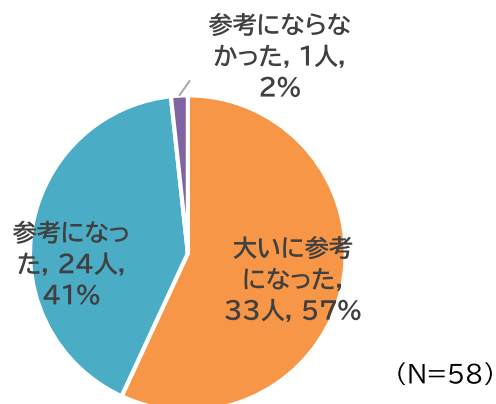
A. ご指摘の通り、生理学的に舌骨上下筋群は上気道虚脱性に重要な役割を果たします。

Ansa Cervicalis Stimulationはまだ欧米を中心に検証中であり、臨床導入には至っていません。今後、舌骨位置に介入する上下方向のTractionを利用した上気道虚脱性改善効果をもつAnsa Cervicalis Stimulationは、舌下神経電気刺激療法との併用療法や、舌下神経電気刺激療法が不適応となる同心性虚脱の患者に対する治療法としての有力候補の1つになるでしょう。しかしながら、今回は、実臨床現場での話しをメインにしましたので、上気道虚脱性や代償性の背景にある生理学的な話題にまで踏み込むことを控えました。ご理解いただければ幸いです。

- オーラルアプライアンスについてのお話しも聞かせていただきたかったです。
- 睡眠医療・呼吸管理センターでの診療や紹介方法等の睡眠に関する県の医療体制を知ることができ勉強になりました。
- CPAPを離脱する方も多いので、参考になった。

4-2. 講演Ⅱ「地域医療構想や診療報酬改定、かかりつけ医、医療機関の経営悪化と国の対策などの医療を取り巻く施策の現状と今後の方向性」

内容について



感想

※いただいたメッセージは原文のまま掲載しています。

- このまま医療費が増えると病院はもっても国は破綻するのではないかと思われました。
- 応用の効かない高齢の内科医は消えていくしかないのでしょうか。
- 話がわかりやすかった。
- 問題の大きさが分かったが、解決が見えず、大変な状況であることが再認識できた。
- もっと時間が欲しかった。
- 厳しい現実をお聞きし、今後の病院運営のことを考えると背筋が伸びる思いです。常に危機感を持って取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。
- 病院と診療所のそれぞれの立場が違うのでなかなか一概に言えないことは多いです。
- 昨年に引き続き、わかりやすい解説をありがとうございました。
- 参加者は医師だけではなく、そのあたりをご配慮いただければと思いました。
- 難しい。

- 資料のボリュームが多すぎた感じでした。
- 講義、資料共にわかりやすかったです。
- 収益が上がっても、人件費に上乗せで終わってしまうと、AI化などあてるお金が無い。

- 母校の奈良医大の経営戦略は怎么样了ののですか？モデルケースとして教えて欲しい。

A 奈良県立医科大学における経営戦略は、大学としての教育・研究・診療の高度化を図るとともに、持続可能で質の高い医療提供体制の確立を目指すことを基本方針としています。特に附属病院においては、地域医療の中核としての役割を果たしながら、経営基盤の強化と医療の質の向上を両立させることを重要な柱としています。

このような考え方の中核には、「病院の経営改善五原則」の理念が位置付けられています。本学では、この五原則を実践的な経営指針として捉え、病院経営の改善および組織運営の高度化に活用しています。

具体的には、下記の原則です

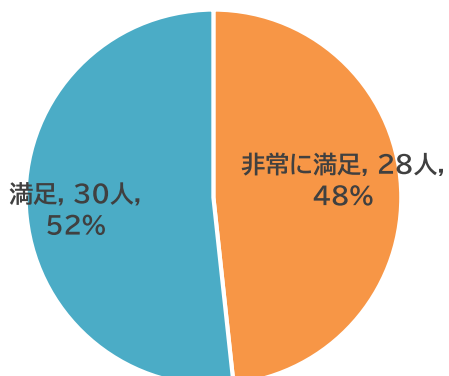
1. 執行責任者を明確化
2. 患者総数の増加対策
3. 入院患者単価増加対策
4. 外来患者単価増加対策
5. 原価低減対策

このような視点を重視し、これらを統合した形で経営戦略を推進しています。

今後も奈良県立医科大学は、「良質で安全な医療の提供」と「持続可能な経営」の両立を図りながら、地域医療の発展に貢献してまいります。

5. 今回の開催方法について

満足度

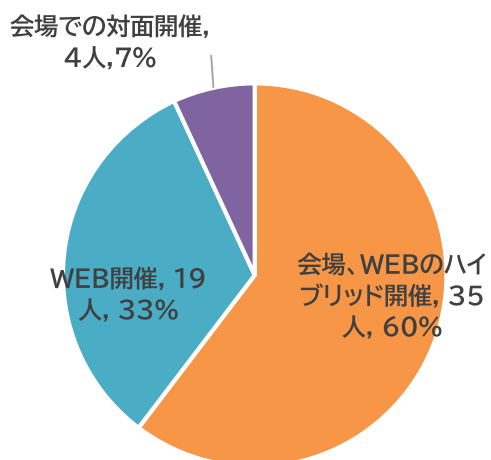


(N=58)

感想、ご意見

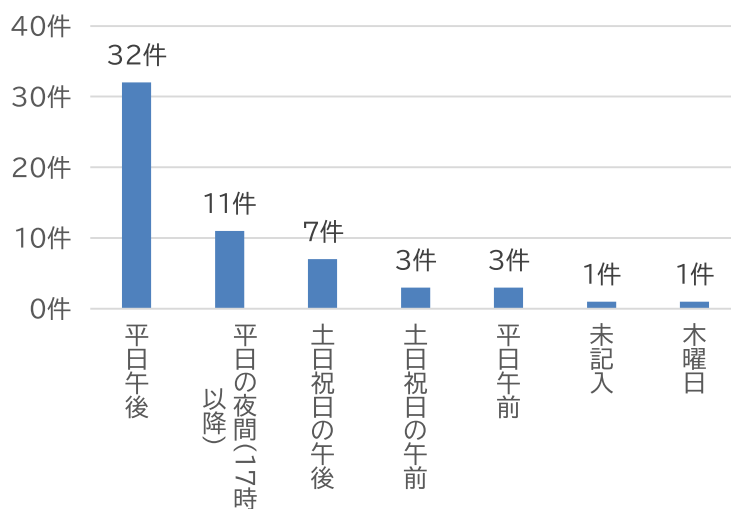
- 木曜日はいろいろ重なるのでハイブリッドはありがたい。
- 開催の時間帯も良かったです。
- 今回と同様を基本的します。
- WEBでも受講できると会場までの移動時間を別の業務に活用できるので良かったです。

6. 希望する開催形態

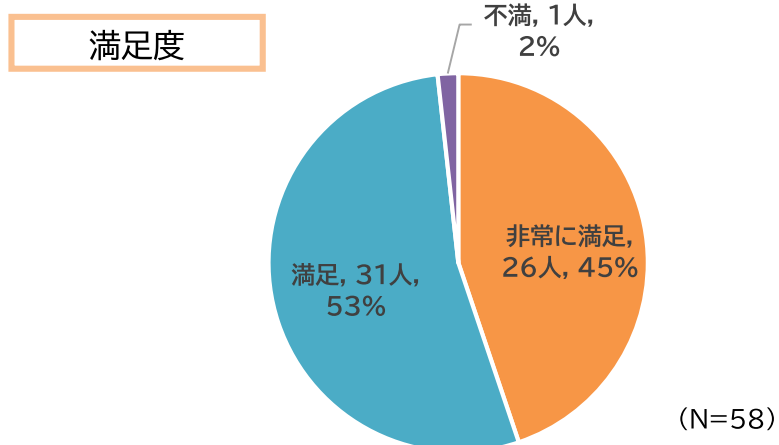


(N=58)

7. 希望する開催日時(複数回答可)



8. 懇話会全体の感想について



感想、ご意見

- できれば公開できる範囲で資料をいただきたい。
- 医科歯科連携というのはまだまだ遠いというのが実感です。
- 講演の資料を後日、引用したい。

9. 希望するテーマ

- めまいセンターについて
- 奈良医大の経営戦略、奈良の黒字病院の経営者の講演
- 県下看護専門学校の廃校の危機に、どう立ち向かっているのか？
- 医療連携とIT化